

メディカルタイムアウト（MTO）の運用に関して

1. 目的：選手の健康・安全面をより配慮した大会運営をするため

2. 適用：理学療法士のサポートがある大会※において、MTO を認める。（R6 新人団体から）
※「インハイ予選の個人・団体」、「新人大会の個人・団体（どちらも1日目は除く）」

3. MTO の高体連ルール

別冊「JTA TENNIS RULE BOOK」に MTO についてのルールがあるが、高体連の試合においてそのままの運用はそぐわないと判断し、以下のように定める。

- ①MTO は 1 試合 1 人につき 1 回までとする。
- ②MTO 以外で理学療法士は呼ぶことができない。
- ③MTO は、試合中に発生した怪我または悪化した怪我の応急処置のみ対象とする。（可能なのはテーピングやマッサージなどの応急処置のみで、熱中症に関しての処置は行わない。）
- ④責任者（ディレクター・チーフレフェリー）が理学療法士による身体評価の結果を踏まえ、プレー続行不可と最終的に判断した場合、責任者が選手にリタイアを宣告する。

4. MTO の運用手順

- ①選手は SCU に MTO を要請する。
- ②SCU からレフェリーへ連絡する。（観戦選手→運営本部になることも想定される）
- ③レフェリーと理学療法士は、コートサイドで待機する。
- ④エンドチェンジまたはセットブレイク時に、レフェリーと理学療法士が状況の聞き取りを行う。
- ⑤理学療法士が理にかなった時間内で選手の身体評価をして応急処置が可能かどうかを判断し、その後レフェリーが許可すれば応急処置を開始する。
- ⑥3分以内で応急処置を行い、その後は直ちにプレーを再開する。（レフェリーが時間を計測する）

5. その他の確認事項

- ①筋痙攣による MTO は認めない。
- ②MTO 中、選手はベンチコーチからコーチングを受けることができる。
- ③MTO 中、選手たちはコート内で待機する。
- ④選手が MTO を要請した直後のエンドチェンジに応急処置が受けられるとは限らない。

附則

令和6年10月22日 顧問総会にて承認